■ 釉薬で雄大な青の情景を表現

木村 芳郎

KIMURA, Yoshiro
日本・広島 / Japan, Hiroshima
1946－

空や海にみられるさまざまな青の情景をテーマに、現代のうつわ像を追究している作家です。彼の作陶に認められる特性は、「碧釉」と命名された透明感のあるコバルトブルーの釉薬と、現代的なフォルムにあるといえるでしょう。凪の穏やかな波を表現した〈漣文〉や小さな粒子が模様をなす〈粒状文〉など、文様との取り合わせからうまれる多彩なブルーの表情。そこには、雄大な自然がつくりだす神秘的で奥深い美しさが認められます。